

平成21年度 緊急対策工について

緊急対策工の設計について

1. 焼却施設撤去

目的：老朽化した焼却施設の倒壊によるダイオキシン類の飛散防止

設計手順

調査資料、関係法令等を踏まえ、洗浄対象範囲を検討して決定

各種関連法令に基づく洗浄解体撤去設計の実施

(安全性を確保し、ダイオキシン類等有害物質が施設外へ流出しない対策の検討)

発注仕様書(案)のとりまとめ、工事实施に関する指示事項の明文化

2. 仮置廃棄物処理処分

目的：仮置き廃棄物の適正処理または保管管理の適正化

設計手順

仮置き廃棄物の状況の応じた適正な処理管理の計画を行う

ドラム缶	} ・ ・ 適正保管	保管基準等に照らし合わせて実施
屋外仮置き廃棄物 木くず等		
	・ ・ ・ 予算の範囲内において適正処理	

3. 水処理施設稼働と下水道接続

目的：既存水処理施設を稼働させ、汚染浸透水の浄化を図る

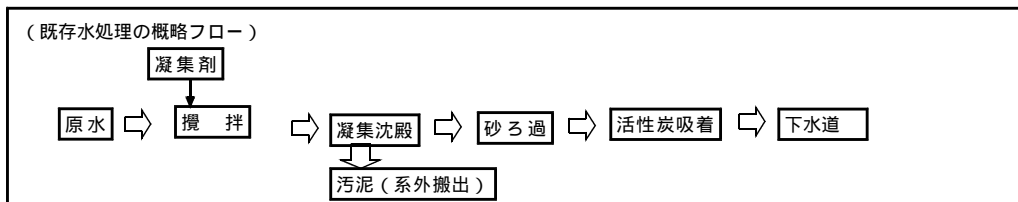
設計手順

既存資料および水処理施設の稼働状況の確認 修繕・改造の要否および設計

(既存施設の機能確認のための試運転)

既存水処理施設から公共下水道への接続(管渠等)の設計

(接続については浄化センター関係団体と協議中)



4. 緊急覆土

目的：未覆土部分の廃棄物が雨水によって飛散流出することを防止

(下流の公共用水域の環境保全を目的)

設計手順

他公共事業の建設発生土を利用した覆土工の検討およびシート等の覆土工の材料等の検討

(参考)緊急覆土におけるメリット・デメリット

未覆土部分を施工範囲として検討(コスト、施工性等を考慮のうえ選定)

既存排水路の破損部分の補修計画
処分場東側平坦地人家隣接環境改善対策の検討

	土による覆土	シート
コスト	建設発生土利用により安価	> シートは高価 (ブルーシート等安価なものは劣化が顕著)
施工性	建設発生土であり品質管理が難しい 傾斜地の施工が困難	< 製品のため品質にばらつきが小さい 傾斜地等、施工が比較的容易
周辺への影響	資材(土量)搬入車両が多い 土工施工時の粉塵 多くの重機を使用	< 資材車両が少ない 多くの重機を必要としない
維持管理	劣化することが無い	> 劣化、破れによる補修が必要

上表は相対的な比較である。

土による覆土の、は施工管理を十分強化することにより対応できるものがある。

周辺環境対策の考え方

1. 進入ルート

既存進入路を使用

(参考) 仮に未覆土部分をすべて土で覆土をした場合のダンプトラック搬入台数

約19日間に120台/日のダンプトラックが出入りすることになる
(あくまでも試算であり実際とは異なる)

2. 騒音、振動、臭気、粉塵の発生

重機使用による騒音および振動(すべての工事)

低騒音型の重機の使用で対応

土工施工時における粉塵発生(緊急覆土、下水道接続)

防塵対策のための散水等で対応

廃棄物の掘削および移動等に伴う臭気・飛散(仮置廃棄物、下水道接続)

仮置物は緊急性を要するもののみ最小限

やむを得ず廃棄物の掘削する場合は、シートによる養生、監視体制を十分行う

3. その他

作業時間は、原則、午前8時から午後5時までとします。

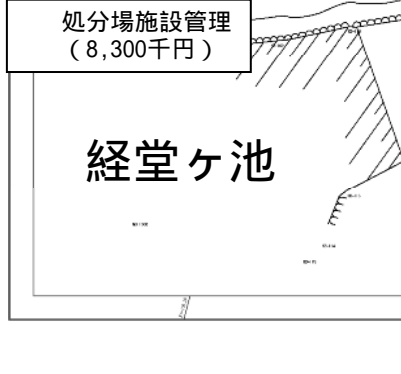
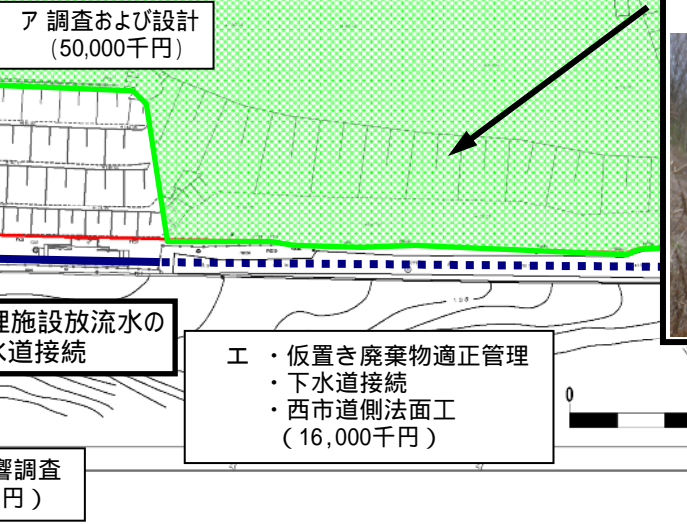
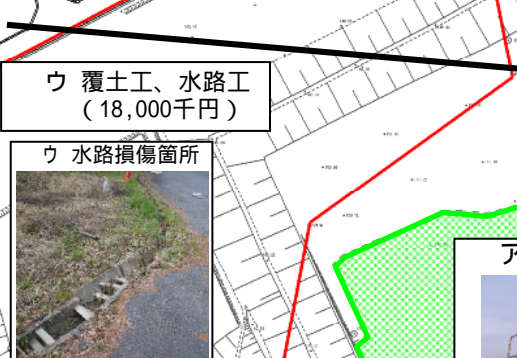
仮囲いを行い、粉塵の飛散、振動・騒音の防止等を行います。また、解体に使用する重機類は、極力、低騒音型のものを使用します。(焼却施設撤去)

工事前、工事中、工事後に敷地境界付近や工事作業場内等において、ダイオキシン類等の濃度測定を行います。(焼却施設撤去)

工事車輛の通行に際しては、安全運転を遵守するとともに、施設周辺の要所に交通整理員を配置し「地元車輛最優先」の運用を徹底します。

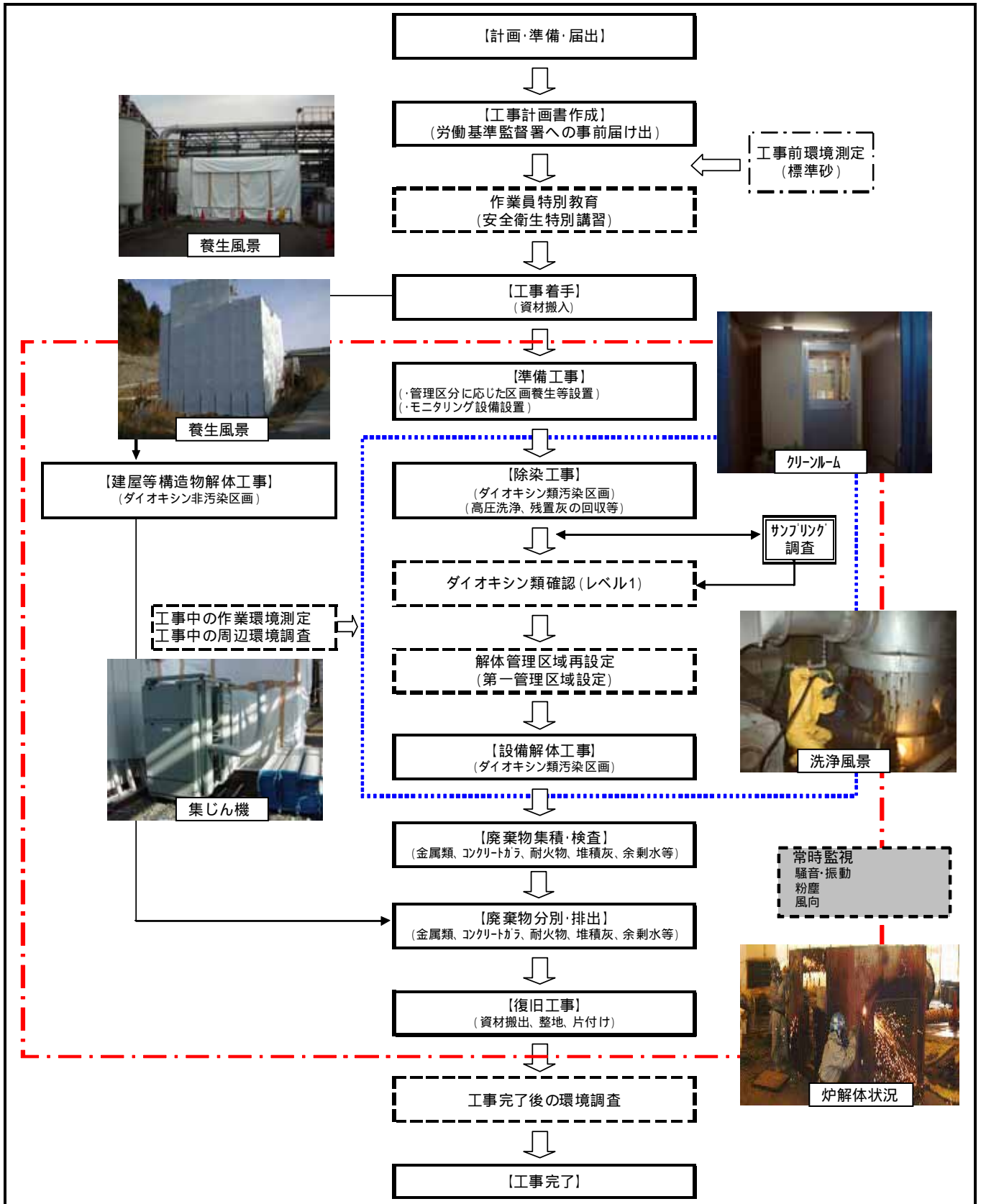
施工方法、環境調査等箇所、調査結果等については、地元住民の皆様にも適宜公表致します。

支障除去対策工、 処分場施設管理、 周辺環境影響調査



(参考)

(他事例) 工事の流れ



予算の範囲内で検討